

## 中山間地域における人口減少と生産的土地利用変化の関係

高柳 誠也

東京理科大学 理工学部

連絡先: <seiya@rs.tus.ac.jp>

- (1) **動機:** 日本は人口減少社会となり、人口減少に対応した地域づくりが必要とされている。特に中山間地においては 1970 年代以降人口減少・少子高齢化が進み、それに伴い土地利用も変化しており、その変化に対応した計画が必要とされている。しかし、全国の中山間地を対象とした上で、人口動態と土地利用変化に着目した研究はみられない。そこで本研究では、日本全国の中山間地域を対象に人口動態と生産的土地利用(田及び農用地)の残存・変化の傾向について明らかにすることを目的とする。
- (2) **方法:** 農林水産省が定義する農業地域類型区分の中間農業地域および山間農業地域を中山間地域とし、GIS 上でその地域を抽出する。また、中核した地域における 1975 年及び 2010 年国勢調査人口メッシュデータおよび 1976 年及び 2009 年国土数値情報土地利用細分メッシュデータを GIS 上でデータベース化した上で、人口動態と土地利用変化について分析を行った。また、分析においては生産的土地利用の差異に着目するため農業地域類型区分における水田型・畑地型に着目した。
- (3) **結果:** 農業地域類型区分ごとの人口変化率(2010 年人口/1975 年人口)と生産的土地利用(水田型に

おいては田、畑地型においては農用地)の残存率および粗放化(森林荒地への変化)率についてそれぞれ整理したものが図1および図2である。ここから、中山間地域における人口動態と生産的土地利用は水田型地域と畑地型地域で大きく傾向が異なることがいえる。水田型地域においては人口半減水準以下になると水田の残存率が低下し、粗放化率が増加する傾向がみられた。また、畑地型においては、中間農業地域よりも山間農業地域の方が残存率が高く粗放化率が小さいこと、人口減少率が高くなるにつれて土地利用残存率が低下するといった傾向はみられなかった。以上の結果より、中山間地域においても地域の特性(水田型集落であるか、畑地型集落であるか)によって土地利用の傾向が全国的に異なることが明らかとなった。

- (4) **謝辞:** 本研究は東大 CSIS 共同研究 No.746 の成果の一部である。
- (5) **関連文献:**

高柳誠也(2019)1970 年代～2000 年代の日本における人口動態に応じた土地利用変化の傾向分析と人口減少卓越地域の空間変容, 博士論文, 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻

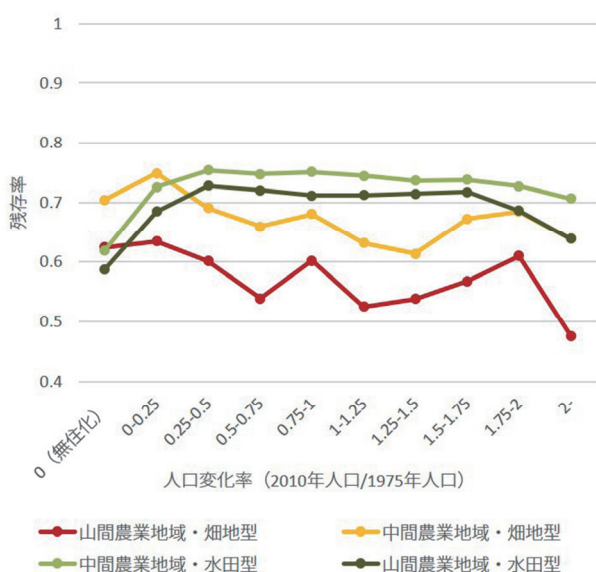


図 1: 農業地域類型ごとにみた人口変化率別生産的土地利用残存率

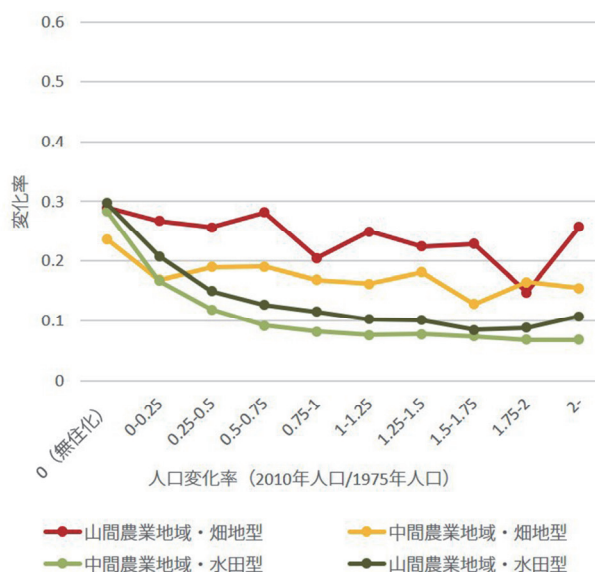


図 2: 農業地域類型ごとにみた人口変化率別生産的土地利用粗放化率